

1 小国地区の概要

小国地区は戸数 87 戸、人口 175 人、高齢化率 64%で浜田市人口に占める割合は 0.33%である。地区内に保育園はあるが地元園児は 2 名、同小中学生 4 名は小国地区外の学校に通っているという高齢少子化地域である。

小国には、歴史的遺産や豊かな自然、人物などの宝が数多くある。また、地元住民が昔から大切にしてきた地域の諸行事もある。これらの宝を大切に思い、残し、語り継いでいかなければならないが、地域における諸行事、ふるさと小国に対する住民の関心の薄さを危惧している。



(小国地区)

2 事業の趣旨

(1) 目的

本事業は、住民に小国の良さに気付ける学びの機会を提供したり、住民自ら郷土の歴史を振り返ったりして、住民が今一度小国を見つめ直す機会をもち、失われつつある地域への関心をもつことができるようにすることを目的とする。また、埋もれている宝を見つけ出す学びや活動を通じて住民同士のつながりを深めたいと考える。その行程の中で、地域の宝を一つにまとめた「小国ガイドブック」作成を企画することとし、ガイドブックが出来たあかつきには、誰もが小国の案内人になれる

ような学習や体験活動も実施していき小国の宝を未来へ伝承できるようにしたい。

その結果、小国を愛する人が増え、小国のよさを発信し、いずれはUターン者、Iターン者が増えていって欲しいという願いもこの事業にこめている。

(2) 育成したい人材

ア 本事業の具体的取組活動を展開する中で、地域住民が何らかの形で参加（例えば写真 1 枚の提供する、語った事が文で残る等）することによって、地域への関心を高める。

イ ふるさと地域学習や「小国ふるさと学校」等の学びの場で、子どもや地区外の方との関わりが生まれ、地域行事にも関心をつよくなり、小国を愛する人が増える。

ウ 小国を愛する人が増えることで、小国のよさを地域内外に発信すること増え、いずれはUターン者、Iターン者が増えていく。

3 具体的な取組内容

(1) 企画会議

地域の各種団体である小国自治振興会、小国の 6 町内長老、小国健生会(小国高齢者クラブ)、島村抱月生誕地顕彰会及び公民館運営推進委員と幅広い年齢層を構成員とする企画会議を構成し、より広く住民を巻き込めるようにした。



(第 3 回企画会議の様子)

(2) 住民が参加しやすい事柄や場面の設定
多くの住民が地域への関心を高めてもらうために、住民が何らかの形で参加できるように参加しやすい事柄、場面を設けた。

ア「おぐにふるさと学校」で親子に小国の宝の紹介

夏に行われる「おぐにふるさと学校」は1泊2日の自然体験学習の場である。毎年地域内外の親子の参加が見られる。そこで、「小国の宝」を紹介し、親子世代を巻き込むきっかけとした。子どもや地区外の方との関わりもうまれた。

イ 写真展の開催

個人及び各種団体に保存している写真(特に昔のもの)を住民に提供を依頼し、収集・整理し、多くの人が集まる小国文化祭で展示する。

ウ 資料の分別をするため内容別の整理トレイを設置し、住民がいつでも見られ、いつでも資料を入れられるようにした。



(写真展の様子)

(「小国の宝」の紹介)

(3) 昔を語る会

かしこまった会ではなく、普段の会話の中から小国の昔の事はこれまでも語られていた。そこで企画会や小国公民館を利用する各種団体に気楽に話してもらえる場を設定し、語ってもらい、それを文章に残していったり実際に体験したりした。

(4) 「小国ふるさとガイドブック(仮称)」の作成

上記取組を通じた結果のまとめとして、冊子「小国ふるさとガイドブック」(仮称)を作成した。今後、話し合いにより校正を重ね、完成させる。そして住民誰もが「ふるさと小

国」の案内人になれるような講座を来年度以降開催していく。小国案内人を養成する礎となる。

4 評価と成果

○公民館来場者への声かけ、公民館だよりや、地域イベントでの活動を地域住民に展示により周知したことで企画委員はもとより、住民からの編集資料の提供に繋がり、住民が今一度小国を見つめ直す機会をもち、地域への関心をもつことができた。

○第2回企画会の時に、企画委員から居住地周辺の旧跡旧道について話が出て盛り上がり、ふるさと地域学習として企画することができた。また、第3回の企画会の時には、昔行っていた遊びや歌っていた歌について話が盛り上がり、高齢者が集い、昔遊びを楽しんだり保育園児に教えながら一緒に楽しんだりする場になった。

○今回の事業を地域についての共通の話題が生まれ、住民どうしのつながりを深めることができた。

5 今後の課題と見通し

事業計画側の意図を伝えようにも住民によって事業への関心度に差があった。自分の住んでいる歴史に興味のない人はいないと思うが、今回作成した「小国ふるさとガイドブック(仮称)」を活用した事業を通じて、より多くの世代、住民に地域への関心を高めてもらいたい。

「小国ふるさとガイドブック(仮称)」の下地となる冊子を作成することができた。3月に行う企画委員会(第3回)での協議のもとに資料を校正し、次年度以降、まちづくり交付金等を活用して「小国ふるさとガイドブック(仮称)」を完成し各戸に配布したい。また、誰もが小国の案内人になれるような学習や体験ができるような学習会を企画・実施し、小国の宝を未来へ伝承できるようにしたい。

(文責：館長 栗栖龍之助)